

製品安全データシート(SDS)

2022年4月1日 製作

2022年2月1日 改訂

1. 製品及び会社情報

製品の名称 : 真空ポンプ Eco シリーズ用真空ポンプオイル
会社名 : JTC Auto Tools 株式会社
住所 : 〒745-0802 山口県周南市大字栗屋 332 番地 4
e-mail : info@jtcautotools.co.jp
FAX : 0834-36-0010

2. 危険有害性

GHS 分類 (に該当する場合)

重要危険有害性及び影響

人の健康に対する有害な影響 : 区分外

環境への影響 : 区分外

物理的及び科学的危険性 : 区分外

3. 組成、成分情報

科学的同一性	CAS	危険クラス	危険状態	濃度
N-フェニル-1-ナフチルアミン	90-30-2	皮膚刺激性:1 水生有害:1	H317; H410	0.10-0.24%

追加情報 : 高精製の鉱物油を<3% (W/W) 含有。IP346 により DMSO を抽出。

4. 応急処置

一般情報 : 通常使用において、健康への危険性は無し。

吸入した場合 : 通常の吸引では治療の必要はありません。症状が続く場合は、医師の診断を受ける

目に入った場合 : 大量の水でしっかりと流す。炎症がある場合は、医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合 : 汚れた服を処分する。水で可能であれば石鹼で皮膚を洗う。痛みやかゆみが残ったりする場合は医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合 : 大量に飲み込んでいない場合、応急処置は通常必要はなし。不快感がある場合は、医師の診断を受ける。

最悪の症状、影響、急性、遅延について

オイルが触れた肌は炎症する可能性が有る。また、飲み込んだ場合、吐き気、嘔吐、下痢を起こす可能性がある。

緊急の治療 : 症状に合わせて治療する。

5. 火災時の処置

科学物質による特定危険事項 :

飛行固体物や液体粒状物質、ガス（スモーク）の混合物。一酸化炭素、未確定有機物、無機化合物。

引火点 : 216°C

可燃限界 : データなし

自己点火温度 : データなし

消火方法 : 泡、水、霧。小さな発火にはドライケミカル、一酸化炭素、砂、土。

消火剤適切 : ドライケミカル、泡、一酸化炭素、霧水。

不適切 : ジェット水

保護具 : 密閉空間で消火する場合は、適切な保護具を身につけること。

6. 漏出時の措置

飛散物や漏えい物に触らないようにする。8の保護具を参照。廃棄方法については13を参照する。地方自治体の条例に従う。

人体に対する注意事項 : 肌と目への接触を避ける。

保護具、緊急時の対応、環境に対する注意事項 :

適切な容器を使用し、環境汚染を避ける。砂や土、適切な囲いを設け、側溝や川に流れないようにする。

清掃方法

漏えい時は滑りやすくなる。事故を防ぐため、すぐに掃除する。砂や土、適切な囲いを設け飛散を防ぐ。液体を直接回収するか、吸着させる。ねんど、土、他の材料などの吸着剤で残留物を吸収する。吸収後は適切に処理する。

追加事項 : 大量に漏えいした場合は、地方自治体に連絡する。

7. 取扱及び保管上の注意

一般情報 : ガス、ミスト、エアゾールを吸い込む恐れがある場合、換気を行う。火事を防ぐため、汚れた布等は廃棄する。安全な取扱、貯蔵、廃棄をするために安全データシートを読む。

取扱い : 長時間触れないようにする。ガスやミストとの吸収を避ける。運搬時は適切な保護具を装着する。

保管 : 容器に常に蓋をする。涼しく、乾燥して、十分換気され、熱や点火源の無い場所で使用、保管する。保管温度 0-50°C。

推奨物質 : 容器の材料には軟鋼や高密度ポリエチレンを使用する。

不適切な物質 : PVC

その他推奨 : ポリエチレン容器は、変形をさけるため高温に曝さないこと。

8. 暴露防止措置

技術者管理 : 保護レベルや必要とされる管理レベルは曝される度合いによって変わる。

通常の使用において、正しく換気されていれば、特別な必要事項はない。

人的保護 : 適切な保護具を使用する。

保護具 : 呼吸用保護具：通常の使用においては必要ない。作業者の健康を保護するためには適切なレベルの汚染濃度が管理されていない場合、承認された呼吸器が推奨されます。呼吸器の選択は法的要件に従う。

必要な場合は、適切なエアフィルタつきのマスクを使用する。ガスの沸点は 65°C。

保護眼鏡 : 目に入りそうな場合、サイドシールドのついた眼鏡を着用する。

保護手袋 : PVC、ネオプレン、ニトリルゴム製の手袋を使用する。点検をし、摩耗や損傷した手袋は交換する。きれいな手で手袋をつける。手袋をはずした後は、手を洗い、十分に乾燥させる。

保護衣 : 通常使用において、保護衣は必要としない。業界の指示する衛生状態、注意事項に従う。

環境被爆管理

環境への被爆は最小限に抑える。自治体の条例に従う。

9. 物理的及び科学的物質

外観等 : オフホワイト。室温では液体。

臭気 : やや炭化水素系。

沸点 : 280°C

流出点 : -12°C

発火点 : 220°C

爆発限界 : 上限-下限 1-10% (V) 鉱物油を基礎とする。

引火点 : 320°C

蒸気圧 : <0.5Pa (20°C)

相対密度 : ca0.858 (15°C)

密度 : ca858 kg/m³ (15°C)

水溶性 : 不溶性物質

蒸気密度 (空気を 1 とした場合) : >1 (想定値)

10. 安定性及び反応性

安定性 : 安定

避けるべき条件 : 極度な高温、直射日光。

危険な分解生成物 : 通常の保管では分解なし。

有害化合物 : 強酸物質

11. 有害性情報

基本評価 : 情報は類似品の化合物及び毒物学に基づくもの

可能性のある被爆経路 : 事故的な吸入の後に、肌及び目への被爆が最初の経路となります。

急性の経口有毒性 : 低有毒性。LD50>5000 mg/kg ねずみ

急性の皮膚有毒性 : 低有毒性。LD50>5000 mg/kg うさぎ

急性の吸入有毒性 : 通常では吸入において有毒性無し。

皮膚の腐食、炎症 : 無し

呼吸危険性 : 無し

生殖細胞変異 : 無し

発がん性 : 動物実験で発がん性無し。

生殖・発達有害性 : 無し

特定臓器有毒性、単一被爆 : 無し

特定臓器有毒性、複数回被爆 : 無し

追加情報 : 使用するごとに、有害な不純物が溜まる可能性があります。不純物の濃度は使用頻度によるが、廃棄時には健康と環境への有害性が考えられます。すべての使用済みオイルは適切に扱い、できるだけ肌に触れないようにする。

12. 環境影響情報

基本評価 : 情報は類似品の化合物及び毒物学に基づくもの

急性毒性 : 十分に溶けていない混合物。水生生物に物的付着物が起こる可能性有。物質的に無毒。水生生物に対して LL/EL/IL50>100 mg/l。濃度が 1 mg/以下の場合、鉱物油は水生生物に慢性的な影響を与えない。

流動性 : 殆どの環境下で液体。水中では泡。土に入った場合、土の粒子に吸い込まれ、流動しない。

粘着性・分解性 : すぐに生分解されない。主な構成物質は遺伝的に分解せいである。しかし、物質の中には永久に環境に残るものもある。

生体内蓄積能 : 生体内蓄の可能性有り。

他の悪影響 : 非揮発性の混合物であり、これはたいりょうに放出される可能性はない。オゾン層破壊、光化学のオゾン生成可能性、地球温暖化の可能性も無し。

13. 廃棄場の注意

オイルの廃棄 : 可能であれば、回収、再利用する。自治体の条例に従い、適切に廃棄する。屋外、溝、水路に廃棄をしない。

容器の廃棄 : 自治体の条例に従い、適切に廃棄する。屋外、溝、水路に廃棄をしない。

14. 輸送上の注意

1. 陸上輸送

容器表示：一 危険物の品名：消防法 第四類 第四石油類

二 数量

三 火気厳禁

- 1) 容器が著しく摩擦または動搖を起こさないように運搬すること。
- 2) 指定数量以上の危険物を車輛で運搬する場合は、自治省で定めるところにより、当該車輛に標識を掲げること。またこの場合、当該危険物に該当する消火設備を備えること。
- 3) 第一類及び第六類の危険物及び高圧ガスとを混載しないこと。

2. 陸上輸送及び航空輸送船

船舶安全法：非危険物

航空法： 非危険物

3. 注意事項

引火性液体なので「火気厳禁」

15. 適用法令

消防法、危険物…第四類 第四石油類

〈注意〉

危険、有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取扱いには十分ご注意下さい。製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として取扱う業者に提供されるものです。取扱う業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱いなどの実態に応じた適切な処理を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いします。従って本データシートは安全の保証書ではありません。